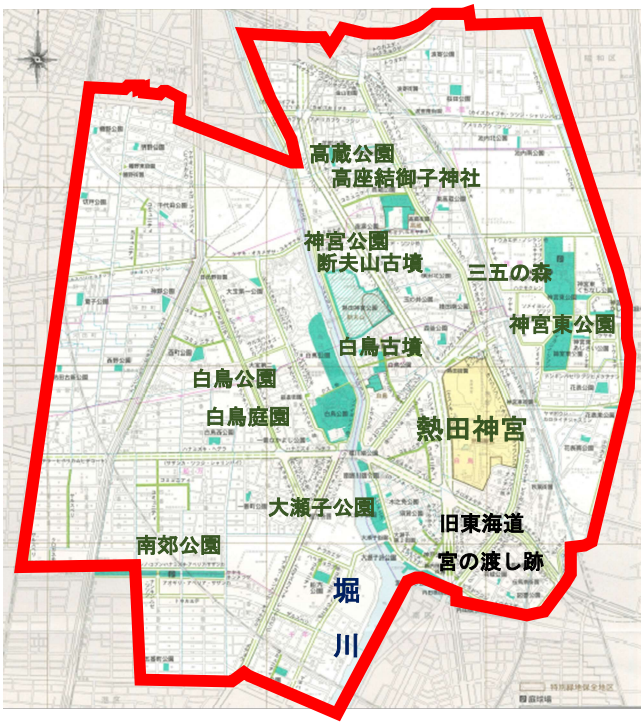
熱田ブランド推進プロジェクト　“あつた人（びと）”になろう！

熱田の自然、緑を巡る ①「熱田の“悠久の緑”　～熱田台地の緑は語る～」

熱田区は、都会の喧騒を離れて神秘的なたたずまいを見せる熱田神宮の森や、断夫山古墳、白鳥古墳、高座結御子神社、神宮東公園、白鳥公園（庭園）等で“緑の回廊”ができ、区の中央を堀川が流れる、“緑と水の豊かなまち”です。

区民の皆様のイメージでも“自然が豊か”という結果があります。名古屋市の真ん中に位置する熱田区は、緑被率としては特に高いわけではありませんが、まとまった大きな緑があり、自然が豊かというイメージがあるのかなと思います。



公園配置図（緑政土木局）

中でも、熱田神宮をはじめとする『熱田台地』の緑は名古屋を代表する緑であり、長い歴史を有する“悠久の緑”として伝統的景観を支え、熱田・名古屋の歴史と共存一体の関係にあります。

今回は、「熱田の自然、緑を巡る①」として、熱田の“悠久の緑”をご紹介します。

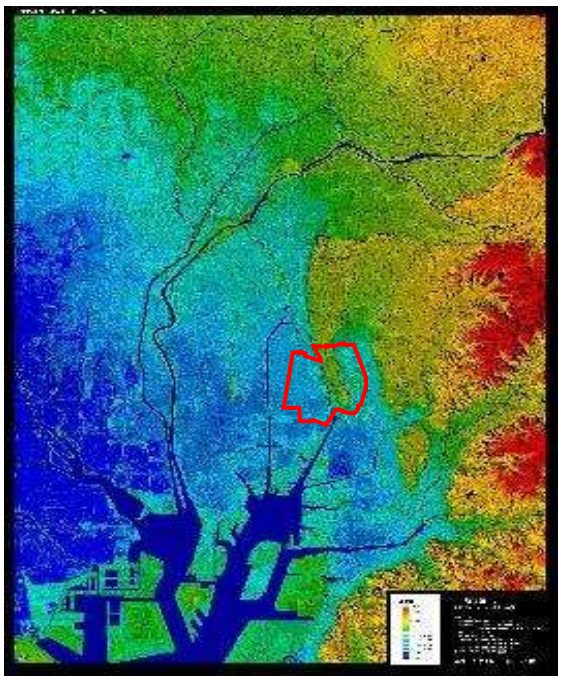
熱田神宮の森
（東からの眺望）

１．熱田の自然、地形から　～熱田台地とは～

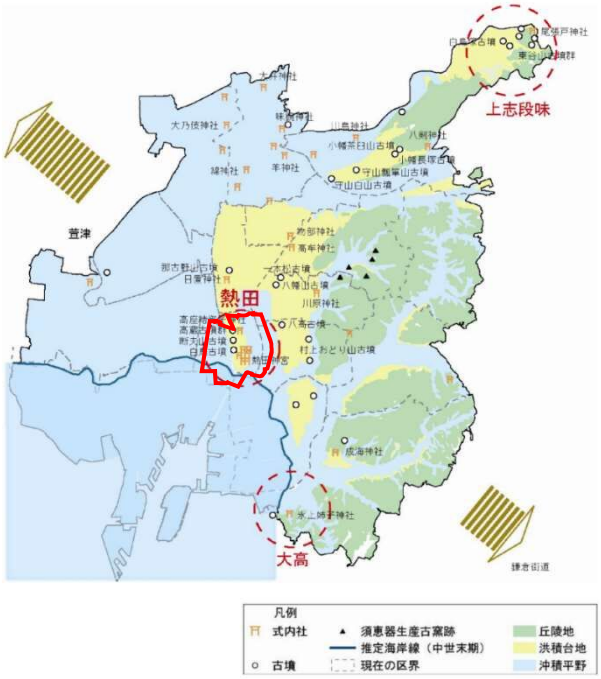
熱田区は、名古屋市のほぼ中央南部に位置し、区の中央を堀川が流れ、東は新堀川で昭和区・瑞穂区、西は臨港線で中川区、南は南区・港区、北は金山で中区に接します。

いわゆる『熱田台地』は、北は名古屋城から南は熱田神宮までの７キロメートルほど、幅約６００～７００メートル、高さ５～６メートルの洪積層の台地で、昔の吾湯市潟（年魚市潟・あゆちがた）に突き出す半島状の台地でした。

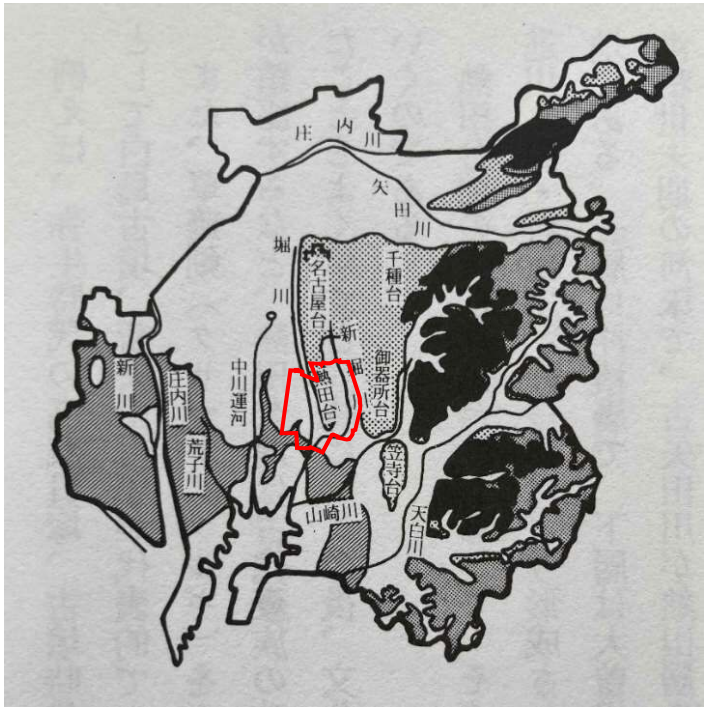
熱田台地の東は、精進川（新堀川）の浸食で形成された沖積層の低地、堀川の西は、庄内川・矢田川水系によって堆積した沖積層の低地で、その南部は江戸時代以降の新田開発でできた地域です。

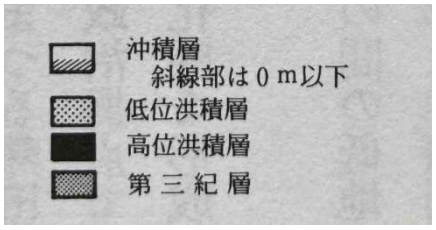


デジタル標高地図（国土地理院）



「語りたくなるまち名古屋」より（住宅都市局）





熱田台地（熱田区誌）

２．熱田台地の成り立ち　～熱田海進、熱田層、熱田の森～

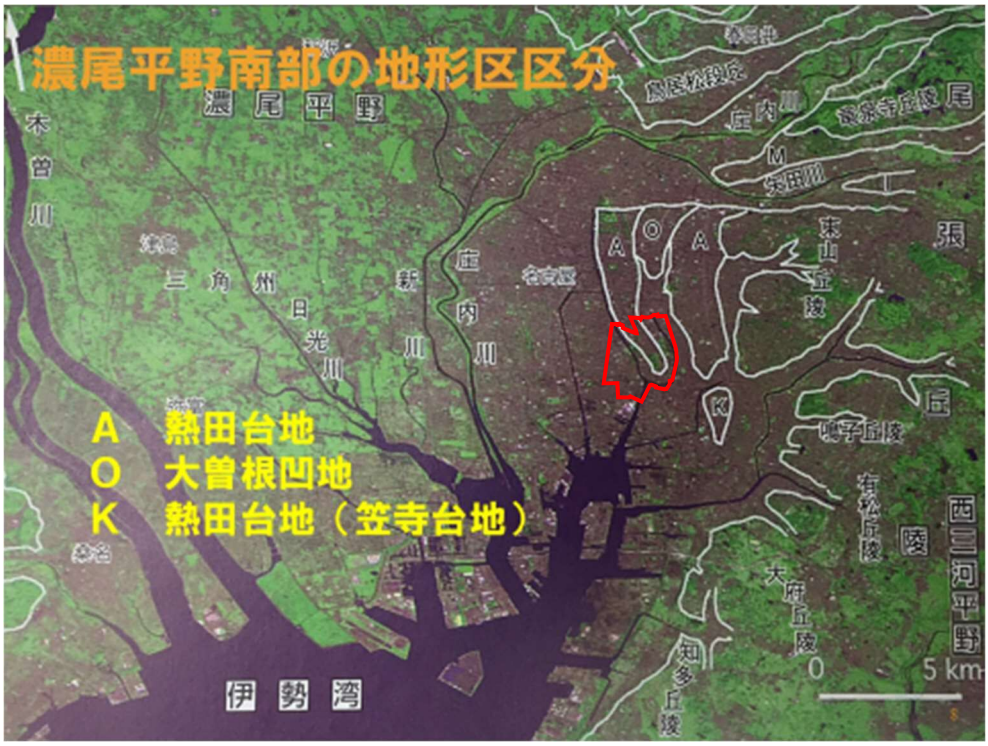
今からおよそ１０万年位前、海がもっと深く海水が陸地の奥まで押し寄せていた時代がありました。『熱田海進（かいしん）』と呼ばれるものです。それから数万年の間、海の底に土壌の元が堆積しました。さらに数万年後、海岸が海の沖へと遠のき、台地状になった陸地の原型ができました。

海に突き出ていた熱田台地では、旧石器時代から人の営みがありました。縄文時代の遺跡（新宮坂貝塚、玉ノ井遺跡）や弥生時代の遺跡（高蔵遺跡）、熱田神宮、熱田古墳群（断夫山古墳、白鳥古墳）が集中して分布しているわけです。

熱田台地の地表面は、熱田海進の際に海底に積もった『熱田層』と呼ばれる土壌で覆われています。この熱田層は植物が育つのに適しており、そこに育った森が『熱田の森』ということになります。

熱田海進

（熱田は、この辺りになるかと思います。）



濃尾平野南部の地形区分図

３．熱田の“悠久の緑”　～新田台地の緑は語る～

熱田台地では、温暖な気候から、もともと暖地広葉樹林を中心とした植生があったと考えられています。以下、熱田台地の代表的な緑を見ていきます。

熱田神宮

神領地として原生林的要素が残された、２０００年の歴史を持つ市南部最大の緑の拠点です。クス、シイ、タブ、カシ、クロガネモチ（常緑広葉樹）やイチョウ、ケヤキ（落葉広葉樹）などが混在しています。中でも、市内最大の大クスやオガタマノキ、樹齢３００年を超える太郎庵ツバキなど貴重な緑が残っています。

御神木の大クスは、弘法大師お手植えと伝えられ、樹齢１２００年以上といわれ、幹回りは１０メートル近くあります。御神木の大クス以外にも、市の保存樹となっている大クスが、普段立ち入ることのできないエリアに１０本ほどあります。

熱田神宮の大クス

熱田区誌中、熱田の自然に関する章で、熱田神宮の大クスについて、**『ワシハ若イ時、頼朝ヲ見タ。コノ間ハ、信長出陣ヲ見タゾ。』**という記述があります。

熱田神宮の大クスは、まさに歴史を見守り続けてきた、生きている文化財といえるのではないでしょうか。

断夫山古墳（神宮公園）

東海地方最大の前方後円墳で、ヤマトタケルの妻ミヤズヒメの伝説が残ります。

クロガネモチ、クスノキ、タブノキ（常緑広葉樹）やハゼノキ（落葉広葉樹）の巨木があります。

「あったか！あつた魅力発見市」（例年１１月開催）の際には、断夫山古墳に登ることができます。

（古墳の登口部分）

（古墳の上はこんな感じになっています。）

白鳥古墳

ヤマトタケルが白鳥（しろとり）となって舞い降りたという伝説が残る前方後円墳です。（前方部・後円部とも、原型はとどめていません。）

断夫山古墳同様、クロガネモチ、クスノキ、タブノキやハゼノキなどの植生があります。

高座結御子神社（高蔵公園）

高蔵遺跡、高蔵古墳群があります。出土したパレススタイル土器（弥生時代、重文・国立博物館蔵）が有名です。クスノキ、カゴノキ（常緑広葉樹）の巨木があります。

高蔵古墳

金山神社

金山は尾張鍛冶発祥の地といわれ、鍛冶鋳造の祖神を奉祀します。

樹齢７００有余年といわれるイチョウの巨木があります。

大イチョウ

以上、熱田台地の自然、主な緑について、その成り立ちや現在の姿を見てきました。

＜ちなみに、「名古屋市の木」はクスノキ、「熱田区の木」はクロガネモチです。＞

古の時代から持続的な発展を遂げてきた熱田の歴史は、まさに自然・環境の歴史でもあります。熱田の自然、緑は、「熱田ブランド」の最たるもので、これからも大切に守り続けていかなければなりません。

熱田台地の“悠久の緑”は、私たちにその重要性を語り掛けているようです。

（記載中不十分な点はご容赦ご教示ください。）

＜出典＞

・熱田区誌

・伊藤悟先生教授資料（樹木医、大学講師、元熱田土木事務所長、元東山植物園・徳川園・戸田川緑地センター・久屋大通庭園フラリエ所長）

・「都市の自然のモノサシ研究会」報告書、関係資料　https://monosashi758.org